

## 周波数再編成(利用変更・移転)のエコノミクスⅡ(後編)

—新システム(EMM)による再編成加速の提案—

### Economics of Spectrum Reallocation II — proposal of a new system (EMM) for accelerating efficient reallocation

鬼木 甫<sup>\*</sup>

Hajime Oniki

初校受付 2012年8月9日

査読を経て掲載決定 2012年9月4日

#### SUMMARY

近年における技術進歩によって電波利用が急増し、電波需給の逼迫から周波数帯の再編成の加速、すなわち「余裕のある電波利用の縮小・終了と、必要度の高い利用目的への転用」が望まれている。しかしながら現に利用中の周波数帯については、再編成実施の可否に加え、実施タイミング、補償金額についても既存利用者が影響力を持ち、再編成が遅れることが多い。本論文はこの問題の解決に資するため、周波数帯の供給価格すなわち再編成時の補償金額については一定の代償を負担しつつ既存利用者自身が事前に決定し、その他の事項については価格メカニズムの機能に沿いながらすべて規制当局が決定することを主眼とする新しい電波再編成システム(EMM: extended market mechanism)を提案してこれを検討する。

キーワード：周波数帯の再編成、再編成加速、電波利用の効率化、利用目的の変更、移転、電波ブロック、電波ブロックの供給価格、埋没費用、ローカル独占、独占利益、電波収用保険、電波利用料、固定資産税、移転補償、余剰、再編成余剰、再編成配当、余剰の分配、電波資源への収益(レント)、先物供給価格、先物オークション、電波ブロックの分割・統合、EMM、extended market mechanism

[前号からの続き]

## 5 電波利用方式と EMM

### 5-1 電波利用方式の種別

本節以下5~8節においては、EMMを実際に導入する際に生ずるいくつかの問題を取り上げ、具

体的な方策を考える。第1に本節では、電波利用方式に多数の種別があることから生ずる課題を検討する。

前節までの議論で暗黙のうちに考えられていた既存利用者は、免許を受けて自分自身のために排他的に電波を利用する「自家利用者(private users)」であった。しかしながら実際には、他者へのサービス供給のために電波を双方向で使用す